



URL <http://kusanone-iwakuni.net/>

続 愛宕山を考える



昨年発行された会報第2号に「愛宕山を考える」という題で、愛宕山開発の経緯が紹介された。その中で、滑走路沖合移転計画に始まった愛宕山の開発は、空母艦載機の移転計画を実現するための布石であったと推論しているが、その後の国・県・市の動きをみると、この計画の実現を目指して、なりふり構わず突き進んでいるように思われてならない。以下その後の経過を追ってみよう。

(1) 新住宅市街地開発事業の廃止

愛宕山開発事業は、国の定める新住宅市街地開発事業に則って進められた事業であり、過去の例をみても、赤字だからといって廃止できる事業ではない。ところが、5000名にも及ぶ反対の意見書が県に提出されたにもかかわらず、赤字であるというだけの理由で、市及び県の都市計画審議会にかけられ廃止手続きが取られてしまった。

(2) 愛宕山地区にあった里道の廃止

古来愛宕山地区には、愛宕神社に参拝する参道が四方から伸びていた。これらの参道は岩国市民固有の財産であり、廃止するには、住民の同意を得る必要があるのだが、そうした手続きを全く踏まぬままこっそりと廃止手続きが取られてしまった。

(3) 市の内部協議資料の開示について

中国新聞のスクープ記事に端を発し、住民による公開請求、非開示の決定に対する不服申し立て、情報公開審査会への諮問、審査会での意見陳述、と約1年にわたる折衝で、情報公開審査会による部分開示の答申を引き出すことができたが、市は理由にならない理由をつけて、頑として情報公開に応じようとしなかった。何故ここまで強引に、法規を逸脱してまで進めようとするのかについては、市井に出回っている市の内部協議資料のコピーを読めば明らかである。国・県・市の3者がグルになって、市民の知らないところで協議をし、その計画を押し進めようとしている。これは、公権の乱用と言わざるを得ず、行政訴訟に訴えてでも、阻止すべき事柄である。岩国市民の戦いはまだまだ続く。



米軍住宅の実態

逗子市、池子(いけご)米軍住宅・施設の教訓に学べ

岩国市議会議員 重岡邦昭

米軍住宅反対署名が11万人を突破し大きな成果を挙げたが、最近、米軍住宅を隠しながら米軍施設なら良いのではないかという市民団体が現れ別の署名活動を始めている。

今、岩国市では米軍施設の自由使用・共同使用が、さも出来るかのごとく、情報が錯綜している。

議員有志の会は、正しい情報を得るため逗子市、池子米軍住宅・施設を調査することとし、併せて、逗子市長に面会した。自由使用、共同使用が出来るかどうかのポイントであったが、次の一言で問題は解決した。

逗子市長いわく「米軍施設は自由に使えるようになっていない。」

なぜならば、ゲートがある 事前の手続きが要る セキュリティがある。米軍提供用地でありながら、国の圧力の下、市長リコール、市長辞職を繰り返し最後には33項目の条件と引き換えにやむなく米軍住宅建設を受け入れた、重苦しい歴史があることを痛感した。

特に、その条件に「スポーツ・文化施設等の建設」があり、国は「市民が使用できるように措置する」とあることから、逗子市は、共同使用できるように国に対して繰り返し要請しているが、いまだに実現されていない。

さらに、国は簡単に約束を破り、米軍住宅の追加建設が表面化している。

米軍住宅も施設も治外法権であり、日本であって日本でない空しさを覚えると同時に、岩国市と同様に国のアメとムチの手法が使われ、米国主導の防衛政策を進めていこうとする国の対応に大きな不安を感じている。

市民にこの事実をしっかりと伝え、岩国市の未来のためには愛宕山に米軍住宅・施設を作らせてはならないのだと、改めて確信した。





真実を知ろう！



基地をめぐる「真実」を客観的に整理してみる。

1. 空母艦載機部隊の移駐

現市長は、就任直後に「理解し協力する」と表明し、事実上「容認」している。

その見返りに、庁舎補助金や再編交付金（毎年10数億円程度）を受け取っている。

2. 愛宕山開発の廃止

数年前に防衛省から県に「米軍住宅用地」として買収の意向が示され、県は借金返済のため水面下で了解。

防衛省と県から決断を迫られた岩国市も、昨年4月以降、水面下で同意（公開された「内部協議資料」で明らか）。

しかしながら、県と市は、そのことをひた隠しにして、愛宕山開発事業を強引に廃止。

3. 民間空港の再開

基地拡大や愛宕山の米軍住宅化と完全な取引材料にされている。その上、赤字になった場合にどこが負担するのかなど肝腎なことは何も決まっていない。

お金などに関するメリットばかりが強調されがちであるが、

裏には大きな負担が隠されていることを知るべきである。

10年前の沖合移設や愛宕山開発の背景には、基地拡大という防衛省の意図と、それを承知の上で公共事業による経済効果を狙う政治家や有力者の思惑が隠されていた。安全・安心を願う市民の切実な想いは完全に裏切られ、米軍再編へとつながる。

二度と同じ過ちを繰り返してはならない。

「知る権利」は民主主義の原点である。どんな未来であっても我々は知った上で選択すべきである。議会も意思決定機関として真実を知り、公開の場で議論し、ルールに則り決めるべきである。

私は、オープンで市民の声が大切にされる政治の仕組み作りを行ってきた。再び、一部の人が牛耳る古い政治が復活していることが残念である。

何十年にもわたって統一的理念と方針によりまちが運営される。私の最終的に目指すものであり、その基盤が「自治基本条例」である。

主役は市民一人ひとりである。行政や議会、市民の役割などにつきーから議論し、基本的なルールを作る。きっと、我がまちを愛する心が芽生えるはず。

昨年「ひらめきワーク」としてまちづくりに関する勉強会を行ったが、その成果を引き継いで、新たに市民の参加を募り、検討委員会を立ち上げる

会員の声

愛宕山開発に思う

吉國 洋

岩国商業高校近くの高台に立ち、北を見た。そこには平坦に切取られた30ha近くの風化花崗岩台地が広がり、人影はなく、雑草がまばらに生えていた。この風景と当初のパンフレットとの乖離（かいり）の大きさに愕然（がくぜん）とする。この10年を振り返ると、いくつもの不自然さに気付く。

一般の宅地開発では、宅地（商品）の価値と関心を盛り上げるために、全体を見渡せるところにお立ち台を造り、掲示をし、案内人まで置く。それに対し、愛宕山では覗き見もできないくらいに厳格な密閉体制であった。商品を売ろうとする意志の希薄さを感じる。

一般の宅地開発では、投下資本を早く回収するために、部分的に完成し、逐次提供をする。愛宕山開発では、ひたすら掘削に専念し、一斉提供を考えた。岩国程度の都市での60haの一斉提供は無謀、年月を掛けて売却してこそ消化の可能性がある。通常、削り取った土は盛り土として利用しなければならず、この負担は大きい。しかし、愛宕山開発に盛り土の煩わしさはない。土砂の全てを沖合移設に供給する事業なので、この収支がとんとんであれば、実質的に100haの愛宕山は災害に強い約60haの台地に生まれ変わったことになり、資産価値は増加した。土砂価格は、1m3当り1,900円であり、関西国際空港期工事で1,300円程度、名古屋空港はもっと安いと聞いており、岩国の土砂価格が厳しいものであったとは考え難い。公社は大きな赤字が出たと声高に発表しているが、何とも理解し難い。収支明細の公表と第三者による資産評価を求めたい。

都市計画決定の解消などと10年間の様々な動きを考え合わせると、元来、岩国市民が愛宕山に託した夢と公社が描いた夢は同じではなかったのではないかと、つい下種（げす）の勘繰りをしてしまう。今一度、市民に良質の生活空間を提供するという公社本来の姿に立ち返って欲しいものだ。





山村での草刈

地域おこし活動の第一歩として
休耕田の奉仕草刈り作業の報告
(美和町秋掛上大田原地区)

「地域おこしの一つとして、稲田をこれ以上荒廃させないように、過疎地域の手助けをするという目的で休耕田の草刈り作業を実施した。」

5月16日(土)参加者4人が上大田原に8時40分に着いた。場所選定をお願いした本郷の岡田氏と、地区自治会長との連絡等でお世話いただいた美和の上村氏はすでに到着していた。打ち合わせもそこそこに、手なれた感じですぐに草刈り機のエンジン音を響かせて作業開始。刈り取る田の指示は上村氏が行い、結局12時前までに大小5枚の田を刈った。集中した作業ぶりは驚くほどの効率の良さだった。



17日(日)は雨の予報だったが、現地に着き、ビーチパラソルを設置し、合羽を着込んで待つ。10人が相次いで到着。・・・この雨の中でもやるの、といった戸惑いの表情？を見せながらも・・・身支度をして分担当所に。女性軍には鎌で、田の畦と道路の側溝沿いの草刈りをお願いしたが、雨の中を結局溝さらいまでやる大変な作業であった。井原代表もびしょびしょになり、見るに忍びない憐れな姿での作業ぶり。大変ご苦労様でした。

12時前に切り上げたが、大小4枚の田を刈った。カヤなど根株から刈り上げるのはなかなかの苦労だったが、作業終了後に味わった充実感とみんなでほおばったにぎり飯は、格別であった。今回のような草刈り奉仕作業に参加出来る人は、事務所へ電話でお申し込み下さい。



地域便り

日本の宝 錦川

美しい錦川を未来へ手渡す会 代表 吉村 健次

5年前錦町に移住し、中国地方初となるラフティング(現代版筏下り)の会社を始めました。それまでは、故郷の広島県を離れ、北海道のニセコでアウトドアガイドの修行をしていました。錦川に移住した理由は、「美しい清流」に惚れ込んだからです。



今まで、北海道尻別川、空知川、岐阜県長良川、近県では江ノ川、高津川などを知っていますが、素直に錦川に特有の美しさを感じます。宇佐川、木谷川などの清流が流れ込む錦川は「生きている」のです。私が川下りで生活している以上、命の川に感謝し、素晴らしさを伝える事が恩返しだと思っています。

その為に避けて通れないのが、平瀬ダムの問題です。治水目的でありながら、「緑のダム」などの方法は検討されずに、建設されています。幸い本体工事は始まっていないので、いったん白紙に戻してほしいと思います。

大雨が降れば、ダムは満水となり、ただ水が通過するだけです。山の元気を取り戻し、ダムに頼らない河川政策が必要なのです。昨年、熊本県知事は「川そのものが宝」と川辺川ダムを白紙撤回しました。私は、小さな一船頭ですが、子孫に美しい錦川を残せるよう、これからもこの問題に向き合っていきたいと思っています。皆様も「日本の宝 錦川」へ遊びに来て下さい。大切なものが見えて来るでしょう。



周東町祖生の柱松

(その はしらまつ)

国の重要無形民俗文化財に指定されており、約270年間毎年開催されている。20mにも及ぶ燃える柱松が夏の夜を焦がす様は圧巻。

日時・場所

8月15日(土) 中村地区

8月19日(水) 山田地区

8月23日(日) 落合地区

いずれも20時から





組織委員会 活動報告

草の根市民集会 スタート！！

各地域のお世話人の皆さんと相談し、会員にはハガキ、封書、チラシ等でご案内を出し、6月から7月にかけて29ヶ所で、草の根市民集会が開催されました。

「真実が岩国の未来を拓く」と題し、プロジェクターを使って井原代表が熱く訴えて回りました。時々寄せられた会員の声です。



- * 政治は遠い存在と捉えていたが、市民が上げる声が必要と気づかされた。
- * 情報公開なくして、行政を正しく語り合うことは出来ないし、行政不信がデマを生み近隣や、友人との絆が薄れてゆく事を感じる。子供の前を歩むのは大人、次世代に希望の持てる岩国にしたいものだ。
- * 民主主義政治においては、情報は開示し、民意を問い政策を決定することが基本であり、常識です。岩国の現行政はまさに時代錯誤、住民無視。市民は真実を知る努力をし、行政に働きかけていこうではありませんか。
- * 市民に隠して、水面下で事を運び、愛宕山米軍住宅化を既成事実としたら・・・と思うと居ても立ってもいられない気持ちだ。



事務局からのお知らせ

事務所の開いている時間が変わります。(8月から)

9:30~12:00 14:00~17:00 (12:00~14:00昼休み)
(土日、祝日 休み)

- * ミニ集会を希望される方は事務所まで御連絡ください。
- * 随時 会員の募集をしています

かつすけ ウラ話

草刈り(美和町 大田原)

大雨の中、びしょぬれになりながら、1枚の田の草を2人で刈った。広い田んぼには、背丈ほどもあるかやが一面に生え、思いもかけない大変な作業に。その日から、約1ヶ月して一緒に草刈をした仲間が、その田んぼを見に行ったところ、私が刈った所ともう一人が刈った所とは、歴然と差がついていたとの報告があった。私のところは、もう青々と草が茂っていたが、丁寧に刈った所は、まだ、ほとんどきれいなままだったそうだ。



編集 後記

先日、TVで錦町の棚田の荒廃を伝える場面を見た。現代日本の礎(いしずえ)を築いた田畑が荒れていく姿を見るのはつらい。百姓とまでは無理だが“一姓”でもいい、土と戯れ自然を楽しむ、そんな時間もいいですよ。皆さん一緒に草刈に挑戦して見ませんか。

会報第三号が出来上がりました。ニュースター、更に ユーチューブ(インターネット動画サイト)でも草の根の情報を発信しています。



事務所の看板です